



名古屋城 子ども博士になろう



ワークシート「城下町」編 名古屋の城下町は、どのようにつくられたのでしょうか

()年()組 名前()

1 【1】()の中に当てはまる言葉を入れて、文章を完成させよう。

関ヶ原の戦いのあと、1610年、(徳川家康)は、名古屋に築城を開始しました。そして、城の引っ越しに合わせて、これまで尾張国の中心だった清須から、町ごと名古屋へ引っ越ししました。

この引っ越しでは、武士、刀や鉄砲職人だけでなく、(寺社)や町人、呉服商、米屋、塩屋、瓦屋などの商家、質屋までも新しい城下に移りました。

さらには、(橋)までも引っ越ししました。

引っ越しは6年くらいかかったよ。

【2】【1】の引っ越しのことを、なんと呼ぶでしょう。

答え

清須越

2 城下町は大きく三つに分けられました。

正しい組み合わせを選んで、記号で答えましょう。

- A. 農地・武家地・町人地
- B. 農地・町人地・寺社地
- C. 武家地・町人地・寺社地
- D. 武家地・商人地・寺社地

答え

C

3 「堀川」について、まとめよう。

ヒントは全て使わなくてもいいよ。

(ヒント:「徳川家康」「熱田の海」「福島正則」「川の長さ」「堀川七橋」)

解答例: 徳川家康は、名古屋城築城や城下町造成のための施設として、

福島正則に熱田の海へつながる新しい水路の建設を命じました。川の長

さは、熱田の海にいたる全長6キロメートルに及びました。当初、堀川に

は、五条橋、中橋、伝馬橋、納屋橋、日置橋、古渡橋、尾頭橋の七つの

橋がかけられ、「堀川七橋」と呼ばれました。築城後には、江戸時代を

通じて名古屋の商業の中心になりました。